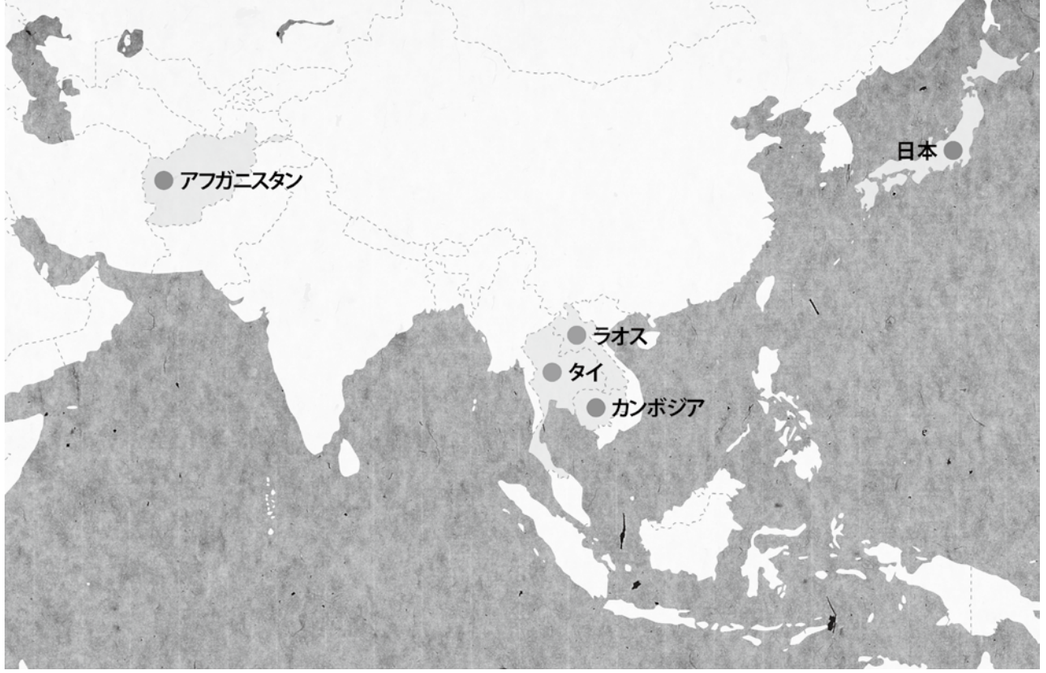
シャンティ　2011年7月1日発行　増刊　通巻261号／1985年6月28日第三種郵便物認可ISSN 1343-4748

2010年度年次報告
2011年度活動計画

2010-2011

公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会



SVA宣言

私たちの願い

SVAは、地球上の貧困や戦争、内紛、環境破壊、災害などによって苦しむ人々のそばに立ち、苦しみを分かち合い、その人々と共に解決のための活動を行います。

そして「共に生き、共に学ぶ」ことができる平和（シャンティ）な社会の実現を目指します。

平和な社会とは、すべての民族と人間の尊厳が保たれ、国家や民族、宗教、言語、文化の違いを美しき多様性ととらえ、違いを称え合い、争いは対話を持って解決される社会のことです。

SVAは、特にアジアにおける教育・文化活動を通じてこのような社会の実現をはかります。それは、伝統文化と価値観に根ざした地域共同体を大切にし、考える力や想像力を培い、社会や生活の様々な問題を解決する力を養うことを意味します。

SVAの歩み

活動年表

1980年	ＳＶＡの前身、曹洞宗東南アジア難民救済会議（ＪＳＲＣ）設立、カンボジア難民支援として図書館活動を開始。タイ事務所（バンコク）開設。
1981年	ＪＳＲＣのボランティアが曹洞宗ボランティア会（ＳＶＡ）を結成。
1984年	初の開発事業がタイ・スリン県バーンサワイ村で始まる。
1985年	タイのラオス難民キャンプで印刷活動開始。タイ・チェンカーン、バンコク・スアンプルースラムで図書館活動開始。「クラフト・エイド」始まる。
1989年	タイ・バンコクのクロントイスラムに職業訓練センター開設。
1991年	カンボジア事務所（プノンペン）開設。タイにＳＶＡの現地法人シーカー・アジア財団を設立。
1992年	ラオス事務所（ヴィエンチャン）開設。「曹洞宗国際ボランティア会」と改称。
1995年	阪神淡路大震災支援。
1999年	「社団法人シャンティ国際ボランティア会」となる。「絵本を届ける運動」開始。
2000年	ミャンマー（ビルマ）難民支援開始。有馬実成元専務理事逝去。
2001年	「リサイクル・ブック・エイド」開始。
2002年	佐々木主浩投手（当時）、ＳＶＡ国際ボランティア親善大使就任。
2003年	アフガニスタン事務所（ジャララバード）開設。有馬実成著「地球寂静」出版。
2004年	「チャイルド・ブック・サポーター」開始。
2005年	愛・地球博「地球市民村」へ参加。
2010年	パキスタン洪水支援実施。

2010-2011

2010年度年次報告
2011年度活動計画

Index

2 ＳＶＡ宣言・ＳＶＡの歩み
3 共に生き、共に学ぶ
4 2010年度を振り返って
5 2011年度に向けて
6 タイ
8 カンボジア
10 ラオス
12 ミャンマー（ビルマ）難民
14 アフガニスタン
16 緊急救援
18 日本
20 会計報告
22 組織・ネットワーク一覧

2010年次報告・2011活動計画
2011年7月1日発行

発行人：若林恭英
（公社）シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015 東京都新宿区大京町31
慈母会館2・3F
TEL 03-5360-1233　FAX 03-5360-1220
http://www.sva.or.jp　info@sva.or.jp

ＡＤ：矢萩多聞
印刷：シナノ印刷

定価：550円

共に生き、共に学ぶ

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（ＳＶＡ）会長　若林恭英

日頃からＳＶＡの活動にご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

3月11日に東日本大震災が発生し、1万人をはるかに超える多くの尊い生命が奪われてしまいました。心より哀悼の意を表しますと共に、津波等で避難生活を余儀なくされておられる皆さまにもお見舞い申し上げます。ＳＶＡとして可能な限りの復興支援を行う所存です。ありがたいことに、個人・団体から募金の申し出をいただいております。またＳＶＡとご縁のあるアジア各地からも救援のための募金や励ましのメッセージなどが寄せられ、絆の力強さを改めて実感しています。最近は「無縁社会」と言われていますが、助け合いながら本来の「結縁社会」を取り戻してゆくことこそが、我々からの被災された方々への手向けであり、生きてゆく力となってゆくと信じています。

さて、2010年度は、国の公益法人制度改革に沿って定款並びに諸規定を見直し、総会で公益社団法人の移行を進めていくための承認を経た後、一年かけて申請作業を行いました。2011年1月4日付にて「公益社団法人シャンティ国際ボランティア会」として登記することができました。ＳＶＡが社会から、より一層期待されていることと受け止め、組織基盤の強化と運営の透明性を確保してまいります。一方、今年は創立30周年という節目の年でもあります。こうした時にこそ原点に立ち返り、NGOとしての専門性は向上したか、先達が培った当初の思いは確かであるか省みる時としたいと思います。先般、カンボジアで事業を視察した折、読み聞かせをひたむきに見つめる子どもたちの瞳にシャンティ（平和）を見た思いがしました。また、現地職員の皆さまの思いを子どもたちに届けられるよう精進している姿がありました。現地の子どもとご支援をくださっている皆さまの「かけはし」となり、思いと思いをつなげられるように活動を行ってまいります。これからも「共に生き、共に学ぶ」道を一緒に歩みながら、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

カンボジアの首都プノンペンにあるトゥール・チェイスラムにて

2010
年度を振り返って

2010.1.1 〜 12.31

2010 年度は、新公益法人格への移行に向け、定款・諸規定等の改定作業を進め、総会決議を経た後に申請手続きを行いました。結果、2011 年 1 月 4 日をもって「公益社団法人」としての登記が完了。今後は、新たな枠組みのもとで多様な市民層の参加と協力によって支えられる組織づくりを目指した運動展開､広報戦略を打ち立てていきます。

2010年の主な出来事

2 月　「絵本を届ける運動」の絵本輸送。
3 月　第 1 回通常総会開催。
8 月　ラオスで事業調整員合同研修会開催。
11 月　臨時総会開催。代議員のつどい開催。
12 月　第 2 回通常総会と 30 周年キックオフパーティ開催。

2010年に主催したイベント

2 月　アジアの民話ってどんなお話？なぜ母語が大切なの？ **(全)**
4 月　わたし、生まれは難民キャンプです **(ミ)**
5 月　1 日だけのクラフト・エイド **(ク)**
6 月　世界の難民たちのことを考えてみませんか **(ミ)**
7 月　ラオスにふれよう **(ラ)**
8 月　子どもと絵本と SVA **(カ)**
9 月　すべての人に図書館を **(ラ)**
　　アフガニスタン・教育の現場から **(ア)**
10 月　祖国、難民キャンプ、そして日本。〜第三国定住を考える〜 **(ミ)**
　　興味のとびらが開かれる〜図書館活動を通じて〜 **(ミ)**
　　カンボジアの小学校に絵本が届く **(カ)**
11 月　みんなの本棚〜ぼくらは絵本でつながっている〜 **(全)**
12 月　シャンティ古本まつり **(リ)**

（写真：川畑嘉文）

※記号は、イベントの内容を示しています。
(全) ＝全事業、**(カ)** ＝カンボジア、**(ラ)** ＝ラオス、**(ミ)** ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、**(ア)** ＝アフガニスタン、**(ク)** ＝クラフト・エイド、**(リ)** ＝リサイクル・ブック・エイド

自立化に向けた組織強化と人材育成

各国事務所とも現地職員の育成、能力開発がさらに前進した一年となりました。8 月には各国事業調整員の合同研修を開催し、海外事務所の将来の自立化に向けた話し合いが行われました。タイは、シーカー・アジア財団（ＳＶＡタイランド）の組織自立化 5 カ年計画に基づき、東京事務所からアドバイザーを派遣し人材育成と組織強化の施策を行っています。日本でもようやく定住受け入れが始まったミャンマー（ビルマ）難民問題。SVA では 7 つのキャンプ内での図書館活動を住民組織主体の運営に移行させていくことを目指し、青年同盟や難民委員会教育部への研修、連携を推進しています。

被災者への支援

スマトラ島沖地震被災者支援活動を 2010 年 4 月まで取り組みました。同年 9 月からはパキスタン洪水被災者支援活動を開始。緊急期に問われる食糧をはじめとした生活物資の配布から、住宅の再建資材や生活副収入源につながる機器・家畜の提供、被災した小学校への教具・教材の支援を行いました。

2011.1.1 〜 12.31

2011
年度に向けて

SVA は、1981 年にカンボジア難民キャンプから活動を始めて、2011 年に 30 年目を迎えます。30 年間、困難な環境に置かれているアジアの子どもたちが、文字を覚え、知識を広げ、人の喜びや悲しみを理解し、自然や文化を愛する心を培ってほしいと願いながら図書館活動を中心とした教育改善事業に取り組んでまいりました。

平和な社会の実現を目指し、日本国内で活動を通じて出会った方々と現地で支援を必要としている方々との「かけはし」となる NGO を目指します。

また 3 月 11 日に起った東日本大震災の被災者支援活動も行ってまいります。

2011－2013年度　3カ年目標

●図書館活動を通じて、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタンの子どもたち、165 万人に読書の機会を贈り届けていきます。

●各国事務所の自立運営に向けた取り組みを促進し、より困難な立場にある国においても、これまでの経験を活かした教育・文化支援事業を新たにスタートさせていくことを目指します。

● SVA の活動に共感し、「共に生き・共に学ぶ」社会の実現に向けて行動を共にしていく人々を新たに 8,000 人増やしていきます。

30周年を起点として

2011 年度は、ＳＶＡ設立から 30 周年の大きな節目を迎える一年であるとともに、次の 3 カ年計画（2011 〜 2013）に向けた初年度です。これまで活動を支えてくださった多くの方々に改めて感謝の意を伝えていくとともに、ＳＶＡの活動に共感し、「共に生き、共に学ぶ」社会の実現に向けて行動を共にしていく方々を新たに 3,000 人増やしていきます。

30 周年キャンペーン事業「本から本へのプロジェクト」を実施。またＳＶＡの支柱的な取り組みである図書館活動の意義･役割をまとめた記念誌「図書館は、国境をこえる―国際協力 NGO30 年の軌跡」を発刊します。

自立化・同盟化の方針、新たな対象国における展開指針づくり

海外事務所の組織自立化・同盟化に向けた方針を検討し、事務所ごとの計画を策定していくとともに、新たな対象国における事業展開指針づくりにも着手していきます。

東日本大震災救援活動への取り組み

東日本大震災の被災者支援を開始します。広域かつ津波による被災に対し、市民一人ひとりの志と行動を支えとしながら、人々に寄り添った取り組みを行います。避難所を中心とした支援、災害ボランティアセンターの運営支援、子どもたちの心のケア、中長期的には高齢者や独居世帯の訪問活動などのコミュニティ支援を行っていく予定です。

タイ Thailand

国データ
公用語：タイ語
首都：バンコク
面積：514,000km²
人口：6,744 万人
（2010 年、国家統計局）
GDP：一人当たり 3941USドル
（2009 年、JETRO）
通貨：バーツ（B）
日本との時差：－ 2 時間

タイの概況
2006 年のクーデター以降、政情の混乱は収まらず、2010 年 5 月、反タクシン派の反政府デモに対する政府側の武力鎮圧は、約 90 人の死亡者を出し、バンコクは市街戦の硝煙に包まれました。しかし、経済面においては急回復を見せた年でもありました。観光産業、輸出産業が大幅に伸び、GDP7.8％増（前年比）となっています。

シーカー・アジア財団（SAF）の組織自立化 5 カ年計画の 2 年目にあたる 2010 年度、スタッフの事業運営、組織運営の面での能力向上が顕著となりました。2011 年度はタイ国内における資金調達の能力強化を重点事項として取り組みます。具体的には、担当職員の雇用、タスクチームの設置など体制の充実を図ります。
事業面においては、ミャンマー（ビルマ）国境地帯における移民の子どもたちに対する支援を開始します。文化的、社会的に複雑な背景を持つため、活動実施に細やかな配慮が必要とされます。それを考慮しながら取り組んでまいります。

• ミャンマー（ビルマ）国境地域における図書活動推進事業

カレン族の村の保育園 33 カ所における図書活動の 3 年目として事業評価や次年度の対象地の情報収集を行いました。41 回開催した移動図書館活動の参加者は、計 5,514 人。保育士研修会には 76 人が参加しました。

2011 年度は、タク県メーソット郡周辺のミャンマー（ビルマ）移民の子どもたちが通う小学校 20 カ所とウンパーン郡カレン族の保育園 15 カ所が新規対象地となります。経済的、社会的に困難な状況にある子どもたちに対して、絵本・おはなしの活動を通して生きる力を育むことを目標とします。

移民のコミュニティにて絵本を楽しむ兄弟

• バンコク・スラム地区コミュニティ図書館運営移管事業

20 年近く運営をしてきたスラム地区の図書館 2 館を行政へ移管します。チュアパーン図書館では、区との話し合いが行われ、住民委員と共に申請書類を作成しました。2012 年度以降の移管完了を目指し区および地域住民との調整を進めてまいります。スアンプルー図書館では、隣接地に都営の総合学習センターが設置されるのを受け、図書館の縮小を検討することになりました。SAF は当センターの運営計画委員を務めていることから、これまでのノウハウを継承していきます。

2010 年度は、1 万 2,627 人がチュアパーン図書館を、1 万 719 人がスアンプルー図書館を利用しました。

チュアパーン図書館で絵本読み語りコンテスト
年少の部優勝のチャリニー 5 歳（写真：瀬戸正夫）

◎奨学生数（2010 年度）

地域	中学生		高校生		大学生		計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
バンコク	5	14	5	11	1	6	42
パヤオ県	14	37	11	19	6	7	94
ターク県	53	87	18	32	---	---	190
ルーイ県	1	4	5	10	1	3	24
計	73	142	39	72	8	16	350

• バンコクにおける研修・教材開発センター事業

開設して 2 年目となる 2010 年度は、バンコク・スラム地区における図書活動の定着度の向上のためにニーズの調査を実施。他団体とのネットワーク構築を行いました。併設のクロントイ図書館では、教材の開発が行われました。また研修会を 16 回実施し、557 人が参加しました。図書館の利用者数 2 万 1,678 人となっています。

2011 年度は、ニーズ調査の結果を生かした研修の開催および教材開発に取り組むとともに、社会の認知を高めるために広報にも力を入れます。

• 奨学金事業

バンコク・スラム地区および少数民族の地域の学生 350 人に対して奨学金の支給をしました。ミャンマー（ビルマ）国境地帯においては、新規対象地の実情把握のため住民および学校との関係づくりを積極的に行いました。2011 年度より国境地帯の子どもたちへの奨学金の支給も行います。

カレン族の村における学生寮の建築が完了し、41 人が入寮。学生たちの生活環境が改善されました。

• 学生寮自立支援事業

新規寮生 17 人を含む少数民族の中高生 49 人が生活をする学生寮では、前年度より自立を目指した農業活動に取り組んでいます。2010 年度は、自然農法の講習および視察を実施し、農作物の生産（米、野菜、キノコ）および家畜の飼育などの活動の質が向上しました。

2011 年度は、これまでの実践の経験を生かし、農産物の収穫量増、運営費の削減を目標にしています。

• スアンプルースラム保育園事業

被災から 6 年後にしてようやく地域の大きな課題であった地区の再登録が完了しました。改めて選出された住民委員が保育園の運営委員に加わり、区への運営移管の手続きを開始しました。「住民主体の保育園運営」を目指し、区との協議を重ねています。運営面では、75 人の園児を受入れ、保育士の能力向上のための研修会を実施しました。保護者との関係づくりに力を入れ、親子で参加できる活動を行いました。

2011 年度も引き続き区との調整および保育の質向上に努めていきます。

親子対象の研修会の様子
（写真：瀬戸正夫）

奨学金　ポンピモンさん母親と妹と一緒に

学生寮　寮生の勉強風景

スアンプルー保育園　親子活動の様子
（写真：瀬戸正夫）

カンボジア Cambodia

2011年は、カンボジア事務所開設20周年にあたります。カンボジア人スタッフ主導による組織運営能力強化に向けてリーダー育成に力を入れると同時に、専門分野の能力強化に取り組んでまいります。カンボジアは、目まぐるしい経済成長を遂げる一方で、都市部と地方との貧富の格差が課題となっています。必要なところや、人々へ届く事業の立案を心掛けると共に、より質の高い活動を子どもたちに提供できるよう努力していきます。これまでの事業ごとの課体制から複数事業を統括する新体制で、より効率的な事業展開を目指していきます。

国データ
公用語：クメール語
首都：プノンペン
面積：181,000km²
人口：1,338万人
GDP：一人当たり768USドル
（2009年、IMF）
通貨：リエル（KHRR）
日本との時差：－2時間

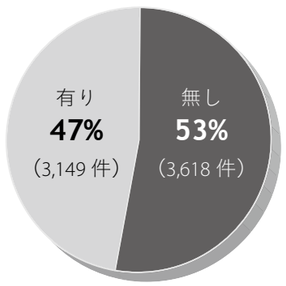
カンボジアの概況
2010年、世界遺産プレアビフィア遺跡付近のタイ側国境において領土問題の確執からタイ、カンボジア間で応戦が勃発。国境付近に住む数千人近くのカンボジア住民が国内避難民となりました。また、ポル・ポト派幹部の控訴審が特別法廷で再開され元ツールスレーン収容所長の判決が言い渡されました。政府の政策である第2次四辺形戦略で掲げている国軍改革や兵員削減等への影響が懸念されます。同時に政府は、民間セクターの開発にも重点を置き、海外からの直接投資を誘致し、経済発展を目指しています。

• 図書館事業

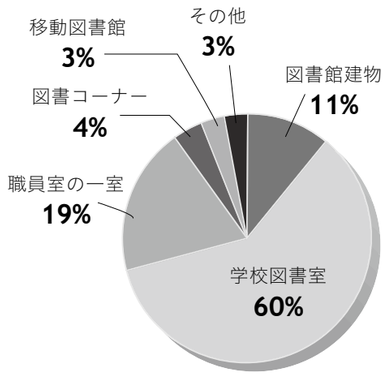
図書館事業はシェムリアップ州、バンテイミンチェイ州、コンポントム州を中心に事業を展開しました。また、JICAとの共同事業である「クラスタースクール制度の衛星小学校における小学校普及事業」がバンテイミンチェイ州2郡にある、86の中心校と85の衛星小学校を対象に開始。2010年度は、177カ所の小学校、教員養成学校などを対象に研修会が開催され、948人の教員が参加しました。モニタリング時などに行われる移動図書館活動は、165回行われ、4万3,360人の児童、教員、父兄らが参加しました。シェムリアップ州教員養成学校で開催された第15回おはなし大会には、161人の教員が参加し、11州からの参加者が各州での図書館活動の様子を紹介しました。絵本出版活動では、6タイトル1万8,000冊の絵本および2タイトル700冊の紙芝居が出版されました。これらの絵本と紙芝居を294カ所の小学校や教員養成学校、政府や民間の各施設に配布しました。

2011年度は、2年間事業である「クラスタースクール制度の衛星小学校における小学校普及事業」の最終年です。学校図書館普及のモデルとなるべく、研修会やモニタリングに力を注いでいきます。

◎小学校学校図書館



◎図書館がある小学校の図書館の種類



（カンボジア教育・青年・スポーツ省）

図書館事業の研修会

スラムでの自由読書

• スラム事業

プノンペン市内および近郊のスラムと再定住地域11カ所にて、移動図書館活動を240回実施し、述べ1万9,416人の児童、1,008人の住民が参加しました。カウンターパートである現地のNGOに引き継いでいくために、NGOスタッフ、教員ら12人を対象に図書館活動に関する研修会を実施しました。対象地域に拠点を持つ学校やNGO、4カ所に約1,000冊の絵本を配布しました。

2011年は、カウンターパートの能力強化に力を入れるとともに、これまでの活動の評価、多様化する都市部の貧困地域の現状把握および今後の活動の方向性を模索していきます。

• ドリームスクール事業

3カ年計画の2年目にあたる本事業は昨年に引き続き、シェムリアップ州、コンポントム州を対象に5教室の学校校舎を5校の小学校に、3教室の校舎を8校に、1棟の図書館を1校の小学校に建設しました。建設においては州教育局、学校支援委員会、地元住民、教員らの協力を得て、計画通りに進めることができました。本事業では、工程管理や校舎完了後のモニタリング時に、各学校に自由読書の機会を提供しており、79の小学校で6,462人の児童、262人の教員が参加しました。校舎完了後のフォローアップでは、地元の教育局や住民の協力を得ながら、新校舎の維持・管理のための連携強化を促進しました。カンボジアの地方では、経済開発における村の移転や土地問題における住民移転などで、新しい村や地域での学校校舎の必要性も高まっています。

2011年は、3カ年計画の最終年でもあり、事業評価を行うとともにニーズ把握に取り組んでいきます。

• 文化事業

スヴァイリエン州スヴァイチュム郡にて「仏教の教えに基づいた倫理教育」に関する研修会を開催し、寺院関係者、地方自治政府、地域住民ら130人が参加しました。研修会の中では、地域開発における、寺院および僧侶の役割に関しても言及しました。昨年に引き続き、スヴァイリエン州、コンポントム州サンボープレイクック遺跡を対象とした自然保護活動についての研修会「自然環境と多様な生態系の保護」を開催し、119人が参加しました。スヴァイリエン州では、苗木センターで育成された苗木3万3,000本が200人以上の住民によって、11キロにわたる灌漑用水に沿って植えられました。対象地域にある3カ所の苗木センターの運営・管理が強化され、自然保護活動への理解を深めてもらうためにリーダー格の寺院関係者、住民ら12人を対象にしたスタディーツアーを開催しました。

2011年は、これらの活動がより地域住民によって運営されていくよう能力強化に力を入れていきます。

ドリームスクール竣工式

建設された校舎の前で遊ぶ子どもたち

植林をする住民と僧侶

ラオス Laos

2010 年度、ラオス事務所のミッションを次のとおり作成しました。「特に少数民族や障がい者、社会的弱者の子どもたちの生活の質の改善を目指し、より良い識字力とライフスキルを身につけるために、基礎教育の質を改善し、更に発展させることを、教員を含めた大人たちと取り組んでいきます。」その達成のために SVA は、質の良い活動を行い、技術や物資を供与し、教員や図書館員といった現地の人々の能力育成に資する活動をすることを再確認しました。結果、公共図書館支援事業、学校教育支援事業と共に、自立的な運営、現地の人々や周辺地域へ裨益するボトム・アップの活動を取り入れていきます。同時に、職員の労働環境改善や能力強化も進めていきます。

国データ

公用語：ラオス語
首都：ヴィエンチャン
面積：240,000km²
人口：632 万人
（2009 年、IMF）
GDP：一人当たり 885USドル
（2009 年、IMF）
通貨：キップ（KIP）
日本との時差：－ 2 時間

ラオスの概況

2010 年は、ヴィエンチャン遷都 450 周年記念行事、第一回クラスター爆弾禁止条約締約国会議のホストを務め、国際的な国家としての成長をアピールしました。経済では、中国、ベトナムなどの援助・投資を受け、10 月にラオス証券取引所がオープン。2011 年は 5 年に一度の人民革命党第 9 回大会が開催され、新たな開発 5 カ年計画の元、国家を上げて開発が進んでいます。

ウドムサイ公共図書館

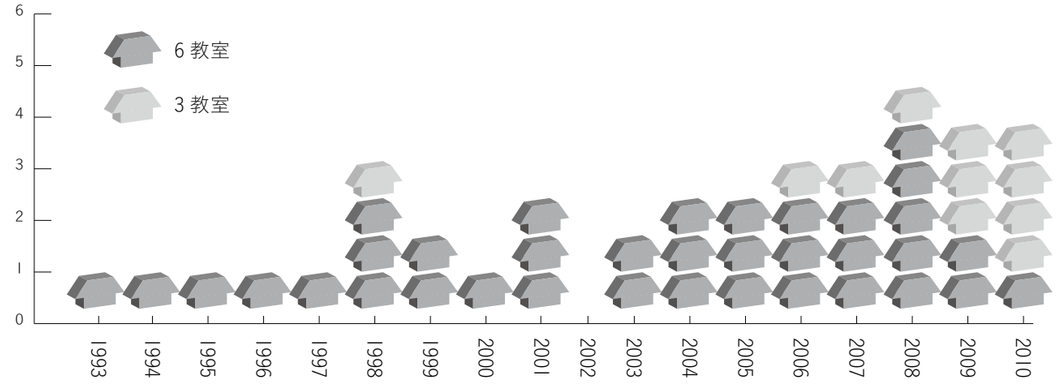
研修会で発表の準備をする参加者たち

• 学校建設と村ぐるみの教育改善事業

2010 年度は、2009 年度に引き続き南部サラワン県において、初等教育の状況を改善するため、施設の整備や人材育成を行いました。施設の整備としては、小学校校舎 5 棟（3 教室 4 棟、6 教室 1 棟）を建設し、約 470 人の子どもたちが安全で快適なコンクリートで作られた新校舎で学べるようになりました。2010 年度に 5 棟の建設支援をしたことにより、学校建設事業を開始した 1993 年以来の建設数は計 47 棟となりました。また、人材育成事業として実施した継続評価法の研修会には、142 人の小学校教員が参加しました。本研修会は、2010 年にラオス政府が発表した教育改革の一つの柱である自動進級制度に現場の教員が対応し、教育の質を改善することを目的として実施されました。

2011 年度は、引き続きサラワン県において新しい教育制度に学校と教員が対応し、子どもたちにとってより良い教育を提供するための研修会を実施する予定です。

◎校舎建設棟数（1993 ～ 2010 年度）



◎移動図書館活動実績（2010 年度）

郡名	学校名	活動回数	利用者数	本の貸出数
ナーサイトーン	ソンブアイ小学校	28	6,112	1,431
	フアイナムイエン小学校	28	7,436	870
サイタニー	ラックワイ小学校	28	10,393	1,176
シーコタボン	バンマイ小学校	28	3,050	850
	ヴィエンカム小学校	27	7,626	1,039
	ホーム・オブ・ライト 視覚障害児施設	39	886	0
サイセター	ナノー小学校	28	3,487	824
計		206	38,990	6,190

子どもの家

• 図書館と青少年事業

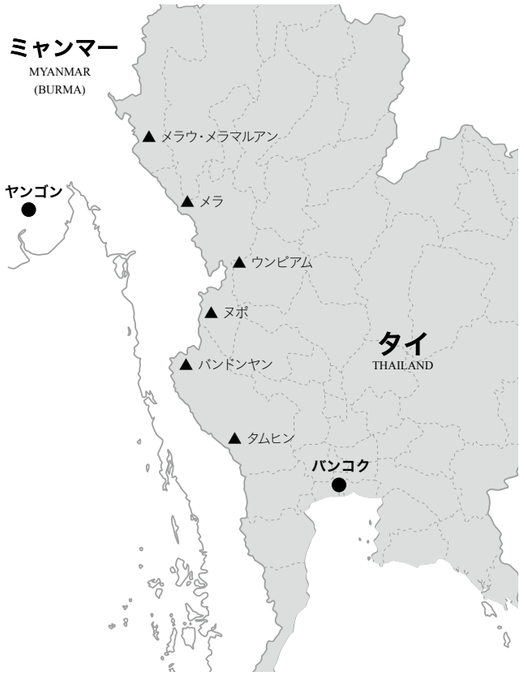
2010 年 8 月より、ラオス国内の読書推進の更なる拡充を目的とした「公共図書館を通じた読書推進活動」を JICA の草の根技術支援事業の資金で開始しました。本事業として、ウドムサイ県に公共図書館の建設を行いました。図書館に自らアクセスできない子どもたちに対する読書推進のために行っている移動図書館活動は小学校 6 校と、1 つの視覚障害児施設を対象に 206 回行い、3 万 8,990 人が参加しました。ラオス国内での絵本不足改善を目的とした絵本出版活動では民話絵本 3 タイトルと、創作絵本 1 タイトル、計 4 タイトルの絵本を出版しました。出版した絵本は 8 カ所の公共図書館を中心に学校図書室、コミュニティ図書館に配布しました。1996 年に始まった「文化と教育のための子どもの家事業」は、14 年間に渡る支援活動による結果、本事業をモデルにした「子ども文化センター」がラオス全県に設立されるまでに至りました。この成果を受けて、2010 年末にて本事業は終了しました。

出版した絵本を読む子どもたち

移動図書館活動

ミャンマー（ビルマ）難民 Myanmar (Burma) Refugees

2010 年から 3 年間の予定で開始した第 4 フェーズ。各キャンプ内の住民組織が中心となって図書館を運営する体制を確立するため、事業運営の能力形成のための研修に重点が置かれています。とりわけ、各キャンプではカレン青年同盟（KYO）と連携が取られ、今後の図書館活動の担い手としての活躍に期待がかかります。更新された活動運営マニュアルを積極的に活用し、人材が移動しても組織的に活動を担っていける体制を作っていきます。事業面では、プロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）手法に基づく事業管理を徹底していきます。



主にカレン族が居住するキャンプ

メラウ難民キャンプ	15,357 人
メラマルアン難民キャンプ	17,672 人
メラ難民キャンプ	45,698 人
ウンピアム難民キャンプ	17,743 人
ヌポ難民キャンプ	5,821 人
バンドンヤン難民キャンプ	4,156 人
タムヒン難民キャンプ	7,582 人
合計	**124, 022 人**

20010 年 2 月との比較＋ 5,957 人

（2011 年 2 月 TBBC）

難民キャンプの概況

第三国定住政策により、7 万人以上の難民が米国を中心に 12 カ国に移住。去年から日本も受け入れ国となりました。しかし、第三国定住ができない未登録の新難民の流入が続いているため、難民キャンプの人口に劇的な変化がありません。タイ政府による難民登録作業が待たれています。また 2010 年 11 月の総選挙以降、カレン州では内戦が再度激化。1 万人を越える住民がタイ領内に流入しました。難民キャンプに滞在していない彼らには国際援助が届かず、厳しい生活を強いられています。

お姉さんに絵本を読んでもらう（メラ）

図書館でカレン族の
ドンダンスを披露（ウンピアム）

• 図書館事業

住民組織による活動運営

従来の図書館員、青少年ボランティア、図書館委員会メンバーに対する研修に加えて、KYO やカレン難民委員会教育部会（KRCEE）等の住民組織を対象にした研修を年 2 回実施しました。特に KYO は積極的な参加意欲を見せ、今後の図書館活動の担い手としての期待がかかります。KYO とは図書館運営の協力契約を交わし、行事企画や月間報告の文書作成などの便宜を図るべく、ノート PC を各 KYO 事務所に寄贈しました。

住民組織中心の活動運営の手がかりになる「マニュアル」の改訂版は、2011 年度から本格的に活用されます。

伝統文化活動

図書館で実施されていた伝統文化教室は、各キャンプにおける学校の夏季講座や伝統文化委員会による独自コースなどに移行しました。一方、SVA ではカレン族のみに偏らず、様々な民族的背景を有する子どもたちが参加する「難民子ども文化祭（RCCF）」を開催しました。この行事は各キャンプで丸 1 日をフルに使い、日中の交流レクリエーション活動と夜間の伝統芸能ステージで構成されています。2 月初旬にターク県の 3 キャンプ（メラ、ウンピアム、ヌポ）で実施された RCCF は大好評で、各地平均 10 民族 100 人の子どもが参加。一般公開されたステージには各地平均 700 人以上の聴衆が集まりました。

◎ RCCF に参加した民族グループ

民族グループ	ウンピアム	メラ	ヌポ
カレン	○	○	○
ビルマ	○	○	○
モン		○	○
カチン	○	○	○
チン		○	○
アラカン	○	○	○
グルカ	○		
パオー	○		○
ヒンズー	○		
ムスリム	○		
シャン	○	○	○
カヤー	○	○	
ゾミ	○	○	
ラフ		○	
リス		○	
ナガ		○	
タヴォイ			○
計	11	12	9

図書館建物の改築・修復

バンドンヤン難民キャンプ委員会の依頼により、2 カ所にあった図書館を統合したため、図書館数は 21 館となりました。

メラ難民キャンプで 3 カ所、メラマルアン及びメラウ難民キャンプで各 1 カ所の計 5 カ所で改装工事を行いました。その内、メラ難民キャンプの第 5 図書館は、2010 年 5 月に近隣の火事が引火して一部を焼失したため、緊急募金による改築を行い、8 月にはサービスを再開することができました。この建物は床に生コンクリートを敷設することができましたが、その他の図書館は、内務省が永久性の高い資材を禁止したため、既製のブロックを敷き詰める形に変更しました。

◎各キャンプにある SVA が運営する図書館

キャンプ名	図書館数
メラウ	4
メラマルアン	4
ウンピアム	3
メラ	6
ヌポ	1
バンドンヤン	1
タムヒン	2
計	21

図書館運営の機構作り

図書館の運営は、難民キャンプ委員会に任命された図書館委員会が担っています。しかし委員会メンバーは、他の難民キャンプ業務の兼務により時間が割けなかったり、図書館に対して関心が低かったりと、難民キャンプによって運営体制の強さが異なります。第 4 フェーズでは、KRCEE や KYO のメンバーが積極的に図書館委員会に参入するように働きかけ、より強力な図書館委員会の体制作りを目指します。

◎図書館利用者総数：59 万 9,533 人（2009 年度比較 2%減）

◎図書館利用者数（2010 年 1 ～ 12 月）

年齢層	男性	割合	女性	割合	合計	割合
0 － 4 歳	43, 428	15%	43, 240	15%	86, 668	15%
5 － 17 歳	146, 009	48%	143, 169	48%	289, 178	48%
18 － 59 歳	108, 625	36%	108, 023	36%	216, 648	36%
60 以上	3, 618	1%	3, 421	1%	7, 039	1%
計	301, 680	100%	297, 853	100%	599, 533	100%

●対象キャンプ
ターク県……メラ、ウンピアム、ヌポ／メーホンソン県……メラマルアン、メラウ
カンチャナブリ県……バンドンヤン／ラチャブリ県……タムヒン

児童及び大人向けの図書配布

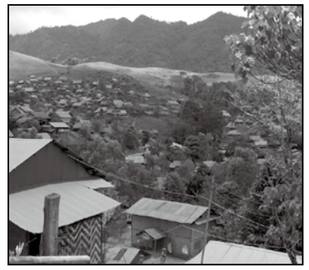
「絵本を届ける運動」を通じて、3 月に新しい 10 タイトルの絵本が到着。現地で整えたビルマ語版と一緒に全図書館に配布しました。到着した絵本総数は旧タイトルを含め 2,472 冊に上ります。ビルマ語の小説、雑誌、教養書を中心に、大人向けの図書も配架しています。ニーズの高まりに対応するため予算を増額し、一図書館当たり平均 90 冊の図書を購入、配架しました（前年度は平均 30 冊）。

図書の出版

2010 年度初頭にメラ難民キャンプにて出版委員会が設立され、各出版図書の翻訳、編集、校正などのプロセスが整いました。参加型の出版体制になり、印刷の完成に遅れが出るなどの課題も残りました。

高齢者から聞き取った民話を文章で残すため、民話集としてまとめました。

タイトル	カレン語	ビルマ語
正直などろぼう（民話）	1,000 冊	1,000 冊
最もすばらしいうそ（民話）	1,000 冊	1,000 冊
カレン民話集 第 6 集（民話）	1,000 冊	1,000 冊
カレン民話集 第 7 集（民話）	1,000 冊	1,000 冊
平和の森（創作） 絵本コンテスト入賞作品	1,000 冊	1,000 冊


キャンプ風景（ウンピアム）

図書館活動を行う青年同盟の若者たち
（タムヒン）

火災に遭ったメラ第 5 図書館（メラ）

アフガニスタン Afghanistan

2010年度はナンガハール州の州都であるジャララバード市での学校図書館事業が最終年を迎え、図書館活動の定着をはかりました。8タイトルの紙芝居、絵本を出版しました。郡部において4校の学校建設を実施しました。子ども図書館を運営し、学校に行けない子どもに学習機会を提供しました。

2011年度からは学校図書館活動を2つの郡の比較的安全な25校を対象に2年間の計画で開始します。ナンガハール州に現在5館ある公共図書館の支援を開始します。また子ども図書館を継続して運営します。学校建設は安全を確保できる、農村部の4校を建設します。

国データ

公用語：パシュトゥン語、ダリ語
首都：カブール
面積：652,225km²
人口：3,100万人
（2008年、国連）
GDP：1人当たり600USドル
（2009年、CIA）※PPP換算
通貨：アフガニー（AFA）
日本との時差：－4時間30分

アフガニスタンの概況

2010年に戦闘に巻き込まれて死亡した民間人は前年より15%多い2,777人となり、SVAがアフガニスタンでの活動を開始した2003年以降、最悪の治安状況となりました。SVAの活動対象地域であるナンガハール州にある587校の学校のうち119校は校舎がなく、建設のニーズは高いのですが、郡部の多くは治安が悪い状態です。州都ジャララバードでも女子校に学校の閉鎖を求める脅迫状が送られるなど、女子の就学が困難になっています。

• 図書館事業

学校図書館

2007年から始まり、最終年を迎えたジャララバード市内22のすべての小学校を対象とする学校図書館事業は大きな成果を上げ、終了しました。事業開始前に図書室を利用する子どもは28%でしたが、96%に改善。児童は、図書室を平均で週2回利用するようになりました。

2011年度は、これまでの都市部での学校図書館活動の経験を基に、ジャララバード市に接する、2郡の25校を対象に、2年間の計画で学校図書館事業を開始します。移動図書館活動によって図書の重要性について教員と子どもたちに理解を促した後に、図書や備品を供与して図書室を設置し、教員を対象に図書館活動の研修を行います。また、2010年度までに図書室を設置した11校に対して教員研修を行います。

絵本・紙芝居の出版

2010年度は、6タイトルの絵本をパシュトゥン語、ダリ語各600冊、2タイトルの紙芝居を2言語各100セット出版しました。また在庫切れとなった1タイトルを再版しました。これらの絵本と紙芝居は、ナンガハール州の36校と子ども図書館にて活用されます。配布対象となる小学校、図書館の増加に伴い、2011年度は、部数を各言語1,200冊に増やし、7タイトルの絵本と2タイトルの紙芝居を発行する予定です。

公共図書館

ナンガハール州では5つの公共図書館が情報文化局により設置されました。同局の要請に基づき、2011年から2年間、公共図書館の支援を開始します。子ども向けの本の配布、移動図書館活動、図書館員の研修、モニタリングと助言指導を行います。

子ども図書館の女の子

2010年度出版の絵本と子どもたち

◎建設した学校（2010年度）

学校名	児童	教員	教室
カマ郡カジ女子小学校	1,336	14	12
ガニハル郡マルコ男子小学校	1,468	17	12
モマンダラ郡ランディバサウル小学校	810	10	9
ソクロッド郡シャヒドアダムカーン男子小学校	315	6	4
計	3,929	47	37

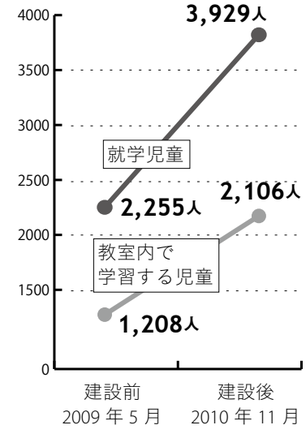
● 2010年度までの累計
建設校数：26棟
建設教室数：270教室
裨益児童数：約2万2,500人

◎出版した絵本・紙芝居

	2010年度	2003年度からの累計
絵本	6タイトル（パシュトゥン語、ダリ語各600冊）	54タイトル
紙芝居	2タイトル（パシュトゥン語、ダリ語各100部）	12タイトル

◎設置した学校図書室数
● 2010年度　3
● 2003年度までの累計　43

◎学校建設の効果
（建設した4校の合計）



子ども図書館

2010年も未就学児童のための特別教室を実施し、50人の子どもたちが学びました。読み聞かせ、工作、タラナ（詩の朗読）といった図書活動、縫製教室、月例行事も実施されました。294日開館し、2009年度より76%多い5万1,065人（内、女子50%）が利用しました。1日あたりの利用者数も昨年度の120人から174人となり、図書の貸出数も大幅に増加しました。2011年度は、特別教室を修了した子どもが、小学校に編入できるためのサポートを行います。

• 学校建設事業

2010年度は、12室（8教室、1図書室、1校長室、1職員室、1教材室）の校舎を2棟、9室（6教室、1図書室、1校長室、1職員室）の校舎を1棟、4教室の校舎を1棟、合計4棟を郡部で建設しました。各学校には、図書や机、椅子等の備品、生徒向けの文具を提供しました。建設終了後には、教員、住民向けの学校校舎維持・管理ワークショップを行いました。建設によって、4校あわせて898人の子どもが青空学級から解放され、安全で快適な校舎で学ぶことができるようになるとともに、就学児童が1,674人増加しました。

2011年度は、12室の校舎を2棟、9室の校舎を2棟、計4棟の建設を行う予定です。

• 洪水被災者への緊急援助

2010年7月にアフガニスタン東部を襲った洪水により1,5000人が家を失い、400人が亡くなりました。当会は、7月下旬にアクセスが困難なため、どの団体からも支援を受けていなかったクナール州の村の150世帯に食糧を配給しました。

• 職員研修および国際交流

2010年9月に東京都北区などの招へいにより、子ども図書館の子どもたち8人が「アジアの子供の夢舞台」に参加し、アフガニスタンの詩の朗誦と民族舞踊を披露するとともに、日本の子どもたちと交流しました。その後、同行したスタッフ2人は経理、図書館事業についての研修を東京で受けました。

4月にUNHCRによる安全確保研修を総務担当職員1人と東京事務所アフガン担当職員が受けました。治安の悪化のため5月以降、日本人職員を派遣できなかったため、イスラマバードや東京などに現地職員を招へいし、業務調整を行いました。日本人職員の常駐ができないため、現地職員の能力強化や日本招へいによる支援者との交流がますます重要となっています。

教員研修でグループワークに取り組む教員

完成した新校舎に向かって走る子どもたち
（ランディバサウル小学校）

「アジアの子供の夢舞台」に参加した
8人の子どもたち

緊急救援 Emergency Relief

被災した子どもたちに笑顔が戻ってきました（パキスタン）

救援物資の配給に殺到する被災者
（パキスタン）

お弁当を手渡す SVA 職員
（パキスタン）

• パキスタン洪水 被災者支援事業

2010 年 7 月に、記録的豪雨がパキスタン北西部を襲いました。その後、インダス川に沿って各地で洪水が発生し、下流の中部や南部へと被害は拡大しました。パキスタン国土の 5 分の 1 が浸水し、死者数約 2,000 人、被災者数約 2,000 万人 (人口の 1 割以上) という建国以来最悪の水害となりました。

活動開始当初は、「チキン・ビリヤニ」の弁当（2 カ村 3,000 世帯）、女性用ショール（2 カ村 500 世帯）、衛生用品（1 カ村 500 世帯）など、食料や生活必需品を提供しました。

10 月以降は洪水により家財道具をすべて流されてしまった被災者の中から、病人、障がい者、高齢者、女性世帯主が暮らす 32 世帯を優先して生活必需品を届けました。

11 月頃からは厳しい冬が始まり、気温は氷点下近くになることもあるため、越冬対策が必要な状況でした。被災者が無事に冬を超せるよう、また各々の世帯や集落がより早く復興への一歩を踏み出せるように 2 カ村で寝具（970 世帯）、調理器具（970 世帯）、仮設住居建設用の素材・資器材（120 世帯）、家畜のヤギ（70 世帯）、ミシン（80 世帯）、衛生用品（120 世帯）の提供を行いました。

2011 年 1 月からは、「村の復興は子どもたちの笑顔から」を目標に、被災した小学校へ教育支援活動を行いました。子どもたちは薄暗い教室の冷たい床や、校庭の地面に座って勉強していましたので、SVA では 4 校の小学校に椅子や黒板などの備品、絵本などの教材や遊具を提供しました。また、子どもたちに楽しんでもらうために絵本の読み聞かせやクリケット大会を開催しました。

2010 年から 2011 年前半にかけて、ハイチやチリなど世界各地で地震による大災害が発生しました。SVA は、2009 年から継続していたインドネシア被災地での活動を 2010 年 4 月に終了。その後、7 月下旬にパキスタン全域で発生した洪水の被災地にて支援活動を行いました。

国内では平常時に、学校や社会福祉協議会などで防災、減災に関する講演や研修会を実施しました。2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の被災者支援として、炊き出し、物資配布、現地の「災害ボランティアセンター」の運営支援を行っています。甚大な被害の今回の震災は中長期的な取り組みを行う予定です。

◎これまでの主な支援活動

1995 年	阪神淡路大震災
1997 年	北朝鮮食糧危機
1999 年	トルコ大地震、台湾大地震
2001 年	インド西部大地震、アフガニスタン難民支援
2003 年	イラン南西部大地震
2004 年	兵庫県豊岡市台風 23 号水害、 新潟中越地震、スマトラ島沖地震
2005 年	三宅島島民帰島支援、新潟中越沖地震、 バングラデシュ・サイクロン（台風）
2008 年	ミャンマー（ビルマ）サイクロン
2009 年	スマトラ島沖地震
2010 年	パキスタン洪水

• スマトラ島沖地震 被災者支援事業

2009 年 9 月 30 日、インドネシア・スマトラ島でマグニチュード7.5の大地震が発生し、死者 1,117 人（行方不明者 241 人を含む）、住宅被害 19 万 8,200 戸の大災害となりました。当初の 1 カ月は支援物資の配布を行いました。医薬品を 6 カ村の 1,890 世帯へ、食料品を 12 カ村の 2,547 世帯へ、そして壊れた家屋の解体や修理、仮設住居を建てるための工具セットは 3 カ村の 921 世帯へ提供しました。

10 月下旬、被災者のテント暮らしの長期化が問題となるなかで、合計 189 世帯に仮設住居を提供しました。

2010 年 1 月からは、被災地の子どもや若者を応援する活動を行いました。村にはなかった子どものための図書館を 4 カ村で建設しました。本は小学生用の絵本や図鑑、中高校生のための小説など 1,050 冊を提供しました。そのほか幼稚園の再建と保育園の補修（1 カ所）、職業訓練所の開設支援（2 カ所）を行いました。

• 防災研修会

日本国内では、地域の防災力と減災力を高めるために防災講座や研修会への講師派遣を行いました。2010 年は大学や高校、小中学校、社会福祉協議会などで「『いざ』という時に何が出来ますか？」をテーマに講座を行いました。こうした活動を通じて、日頃からの災害に対する意識や地域での人間関係が大切であることを参加者へ伝えています。

• ネットワーク活動

2010 年 9 月、首都圏の大地震に備えた「帰宅困難者対応訓練」の運営に協力しました。また毎年 3 月に静岡県で行われる「災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」に参加し、大災害時の広域連携のあり方を模索しています。そのほか「東京災害ボランティアネットワーク」や「震災がつなぐ全国ネットワーク」に加盟、「顔の見える関係」を大切に、災害に備えた連携強化を図っています。

完成した幼稚園で元気に遊ぶ園児たち
(スマトラ島)

図書館が開くのを待ち構えていた子どもたち
(スマトラ島)

大学での防災の研修会
(日本)

帰宅困難者対応訓練の参加者を支援する
エイドステーション（日本）

日本 Japan

2010年度はSVAの活動を知ってもらうため月1回のペースで、東京事務所をはじめ、企業、大学にも場所を提供していただきながら精力的にイベントを行いました。SVA設立30周年を迎える2011年度は、リサイクル・ブック・エイドからの募金が現地の絵本出版に充てられる「本から本へのプロジェクト」を柱として取り組んでいきます。

子どもたちのカードに心と心のつながりを実感

チャイルド・ブック・サポーター

支援をより実感できる活動に

登録者数、登録口数ともに前年末より微増。2010年末現在、669人、857口のご登録をいただいています。4月、サポーターへのより積極的な情報発信を目指し、ニュースレター「えほんの家族」（季刊）の送付を開始しました。5月には、活動地の子どもからの写真付き直筆メッセージをお届けしました。子どもたちの表情、素直な感謝の言葉に対し、サポーターからあたたかな声が多数寄せられました。また、春先より議論を重ね、活動趣旨を明確に示す新名称「アジアの図書館サポーター」への変更が、第2回通常総会にて承認されました。（2011年4月より新名称に移行）

絵本の出荷を終えて

絵本を届ける運動

2万4千冊の絵本が子どもたちへ

2010年度分として過去最多の2万4,417冊を発送。1999年の活動開始以来、送付冊数総計は17万冊を超えました。多くの方にご協力いただき、年度途中で目標冊数に達しました。出荷当日まで、多くのボランティアや企業の皆さんにお手伝いいただきました。2011年度は収集タイトルの内容を大幅に変更し、合計1万8,200冊を目標にご協力を呼びかけます。

カンボジア難民キャンプの子どもたちの絵と写真展

広報

色々な媒体を通して情報を発信

2010年度は、ニュースレター「シャンティ」などの紙媒体の広報と同時に、ブログやツイッターなどソーシャルメディアの活用を始めました。また報告会やイベントを積極的に行いました。チャリティ寄席は全国からお声掛けをいただき64カ所で開催しました。2011年度は、国内事業課の中にあった広報セクションが、広報課として独立。さらに多くの人々にSVAを知ってもらうため取り組んでいきます。

ツアーにて、ラオス・シビライ村のクラフト生産者たちと

クラフト・エイド

生産者を訪ねました

2010年度は事業開始25周年で、7月にラオス・タイに生産者を訪ねるツアーを実施。また、委託フェア「わたしの街のクラフト・エイド」を全国で開催しました。新規顧客を団体34件、通販249件獲得し、年間売上げも好調でした。2011年度は大口注文、店舗、委託向け営業にさらに力をいれ、Webと広報を強化して若年層中心に知名度を高めます。

段ボール箱につめるだけで気軽に社会貢献

リサイクル・ブック・エイド

SVA支援の入り口として

2010年、ご寄贈いただいた書籍・CD類は約11万点に上りました。気軽に参加・協力できる活動であることから、これまでご支援をいただいていた方だけではなく、それまでSVAを知らなかった幅広い層の方々のご参加をいただきました。2011年、30周年事業として「本から本へのプロジェクト」を実施。リサイクル・ブック・エイドからの募金でアジアの子どもたちが手にする1万冊超の絵本出版につなげます。

各国事業調整員合同研修会でのフィールド訪問

海外事業支援

海外での活動を円滑に行うために

2010年度は、海外事業の募金活動を目標通りほぼ達成しました。ラオス、アフガニスタン事務所ではフェーズ終了に伴う事業評価を実施、シーカーアジア財団の現地自立化計画も引き続き支援しました。2011年度は経理合同研修等を通じた海外事務所の人材育成、事業運営・実施における支援体制を一層強化していきます。

会計報告 Accounting Report

《一般会計》2010 年度収支計算書

2010 年 1 月 1 日～ 2010 年 12 月 31 日

◎事業活動収支の部

（単位：円）

事業活動収入		**602,636,289**
	基本財産運用収入	300,000
	特定資産運用収入	142,173
	会費収入	28,125,000
	寄付金収入	311,950,161
	事業収入　注①	121,470,370
	補助金等収入	134,447,759
	雑収入	1,647,366
	特別会計繰入金収入	4,553,460
事業活動支出		**496,378,397**
事業費支出		481,715,756
	タイ事業費支出	34,604,291
	カンボジア事業費支出	136,031,041
	ラオス事業費支出	75,571,847
	ミャンマー（ビルマ）難民支援事業費支出	44,400,890
	アフガニスタン事業費支出	92,510,281
	絵本を届ける運動事業費支出	44,616,995
	チャイルド・ブック・サポーター事業費支出	8,980,854
	クラフト・エイド支出	37,026,586
	リサイクル・ブック・エイド支出	4,175,241
	企画調査支出	3,797,730
管理費支出		14,662,641
事業活動収支差額 (A)		**106,257,892**

◎投資活動収支の部

投資活動収入		**41,669,748**
	特定資産取崩収入	41,320,247
	敷金保証金収入	349,501
投資活動支出		**92,446,720**
	特定資産取得支出	89,284,793
	固定資産取得支出	2,843,927
	敷金保証金支出	318,000
投資活動収支差額 (B)		**▲50,776,972**

◎財務活動収支の部

該当なし (C)	**0**
当期収支差額（**A + B + C**）	**55,480,920**
前期繰越収支差額	**100,453,109**
次期繰越収支差額	**155,934,029**

※ 2010 年度の平均為替レート　1 ドル＝ 88.36 円　1 バーツ＝ 2.7616 円　1 アフガニー＝ 1.8939 円

※ 2010 年度の役員報酬は、5,013,000 円である

《特別会計（緊急救援事業）》2010年度収支計算書

2010 年 1 月 1 日～ 2010 年 12 月 31 日

◎事業活動収支の部

（単位：円）

事業活動収入		**32,763,820**
寄付金収入	スマトラ沖地震事業収入	7,268,134
	パキスタン洪水事業収入	8,770,294
	その他収入	260,496
補助金等収入		16,464,896
事業活動支出		**38,724,771**
事業費支出	スマトラ沖地震事業支出	8,021,749
	パキスタン洪水事業支出	19,844,589
	パキスタン洪水（アフガニスタン事務所分）事業支出	398,090
	三宅島・風の家支援支出	300,000
	その他支出	5,606,883
一般会計繰入金支出		4,553,460
事業活動収支差額		**▲5,960,951**

◎投資活動収支の部

該当なし	**0**

◎財務活動収支の部

該当なし	**0**
当期収支差額	**▲5,960,951**
前期繰越収支差額	**11,686,763**
次期繰越収支差額	**5,725,812**

注①
内、66,804,022 円は、外務省日本 NGO 連携無償資金協力（アフガニスタン事業）。
2010 年度決算より、補助金扱いではなくなったため。

貸借対照表・総括表

2010 年 12 月 31 日現在

◎資産の部

（単位：円）

		一般会計	特別会計	合計
流動資産		**256,258,085**	**5,725,812**	**261,983,897**
固定資産				
	基本財産	50,000,000	0	50,000,000
	特定資産	372,412,175	0	372,412,175
	その他固定資産	15,372,272	0	15,372,272
資産合計		694,042,532	5,725,812	699,768,344

◎負債の部

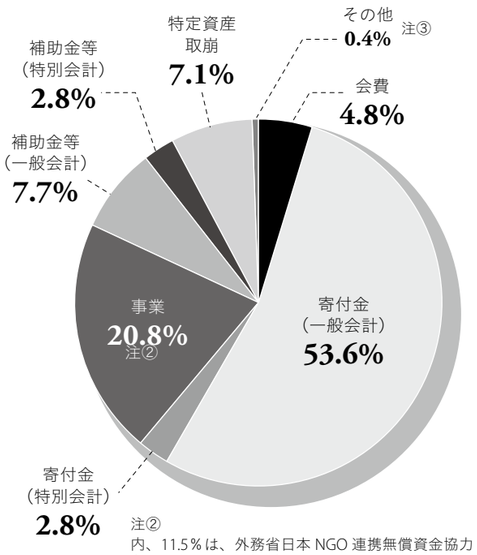
	一般会計	特別会計	合計
流動負債	**100,324,056**	**0**	**100,324,056**
固定負債	**38,562,522**	**0**	**38,562,522**
負債合計	138,886,578	0	138,886,578

◎正味財産の部

	一般会計	特別会計	合計
指定正味財産	**373,342,077**	0	**373,342,077**
（内、基本財産への充当額）	（50,000,000）	0	
（内、特定資産への充当額）	（323,342,077）	0	
一般正味財産	**181,813,877**	**5,725,812**	**187,539,689**
（内、基本財産への充当額）	0	0	
（内、特定資産への充当額）	（21,870,098）	0	
正味財産合計	555,155,954	5,725,812	560,881,766
負債及び正味財産合計	694,042,532	5,725,812	699,768,344

社団法人シャンティ国際ボランティア会は、当会監事による監査及び田中義幸公認会計士事務所による財務諸表の外部監査を受けております。

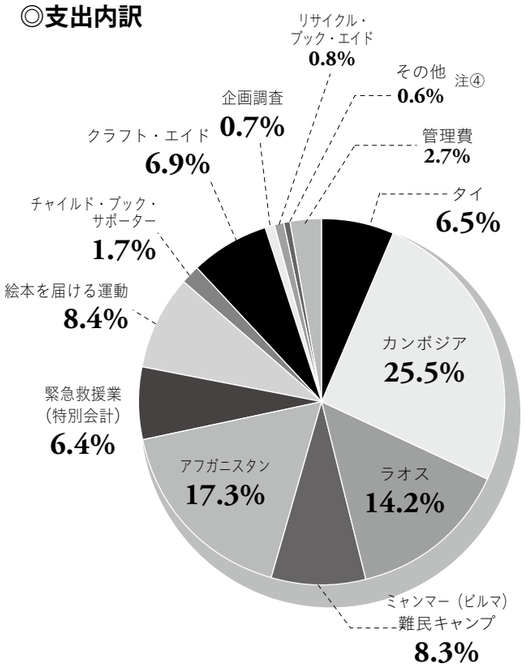
◎収入内訳



注②
内、11.5％は、外務省日本 NGO 連携無償資金協力（アフガニスタン事業）。

注③
基本財産運用収入、特定資産運用収入、雑収入の合計。

◎支出内訳



注④
固定資産取得支出と敷金保証金支出の合計。

組織ネットワーク Organization&Network

❖ 会員

会員合計	1,896 名
社員会員	320 名
個人会員	267 名
団体会員	53 名
賛助会員	1,576 名
個人会員	1,328 名
学生会員	45 名
賛助団体会員	170 名
賛助維持個人会員	20 名
賛助維持団体会員	13 名

（2010 年 12 月 31 日現在）

❖ 役員（理事 19 名、監事 2 名）

代表理事（会長）	若林 恭英	長野県・安楽寺住職
理事（副会長）	神津 佳予子	有限会社ケイアンドアイ代表取締役社長
理事（副会長）	三部 義道	山形県・松林寺住職
理事（専務理事）	茅野 俊幸	長野県・瑞松寺副住職
理事（常務理事）	倉科 利行	長野県・全久院住職
理事（常務理事）	早坂 文明	宮城県・徳本寺住職
理事（常務理事）	秦 辰也	近畿大学文芸学部英語多文化コミュニケーション学科教授
理事	上原 泰男	東京災害ボランティアネットワーク事務局長
理事	亀﨑 弘記	全国電力関連産業労働組合総連合労働政策局長
理事	神 仁	財団法人全国青少年教化協議会主幹
理事	角 直彦	特定非営利活動法人シャンティ山口代表理事
理事	関 尚士	ＳＶＡ事務局長
理事	長浜 洋二	NPO コンサルタント、NPO サポートセンター・アドバイザー
理事	永堀 宏美	人材 (人財) 開発＆教育コンサルタント
理事	野村 修一	弁護士
理事	萩野 頼子	株式会社飯能製作所代表取締役社長
理事	笛岡 賢司	静岡県・龍谷寺住職
理事	八木沢 克昌	ＳＶＡアジア地域ディレクター
理事	渡辺 恵司	ワタケイ紙器株式会社代表取締役会長
監事	青木 利元	ボランティア活動国際研究会幹事
監事	増田 和生	大阪マイペンライ運営委員

❖ 名誉会長

松永 然道　静岡県・宗徳院東堂

❖ 顧問

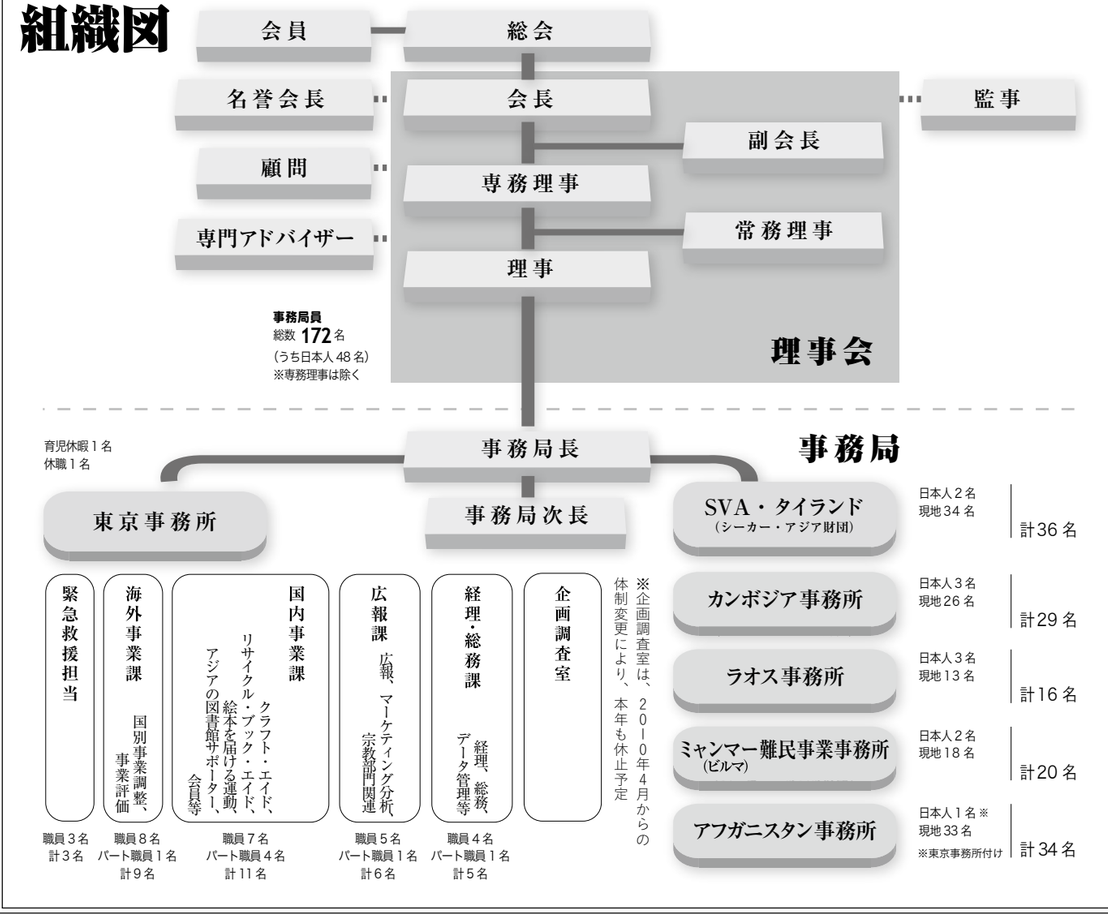
足立 房夫	社団法人協力隊を育てる会会長、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会副会長
阿部 豊淳	宮城県・光寿院住職
荒巻 裕	近畿大学副学長・総合社会学部長
小野田全宏	特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会常務理事
川原 英照	熊本県・蓮華院誕生寺貫主、特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会会長
白石 孝	荒川区職労アドバイザー
簇本 宏昌	東京都・泰宗寺住職
松野 宗純	福井県・地蔵院東堂、全国ＰＨＰ友の会相談役

❖ SVA専門アドバイザー

佐藤 凉子	「NPO 図書館の学校」常務理事
田尻 佳史	日本 NPO センター事務局長
田中 弥生	独立行政法人大学評価・学位授与機構准教授
松尾 純代	大阪マイペンライ運営委員

（2011 年 4 月 1 日現在）

組織図



❖ 参加ネットワーク一覧

◎国内

NGO–労働組合国際協働フォーラム【企画委員】／カンボジア市民フォーラム【団体会員】／ジャパン・プラットフォーム（JPF）【NGO ユニット正会員】／ビルマ市民フォーラム【団体会員】／開発教育協会（DEAR）【団体会員】／教育協力 NGO ネットワーク（JNNE）【団体会員】／国際協力 NGO センター（JANIC）【理事】／ CSR 推進 NGO ネットワーク【会員】／震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）【会員】／地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）【団体会員】／中央共同募金会－災害ボランティア・市民活動支援に関する検証プロジェクト会議【検討委員】／東京災害ボランティアネットワーク（東災ボ）【副代表、運営委員】／仏教 NGO ネットワーク（BNN）【副代表、運営委員】／シーズ・市民活動を支える制度をつくる会【賛助会員】／日本 NPO センター【会員】／日本 UNHCR － NGOs 評議会（Ｊ－ＦＵＮ）【団体会員】／日本アフガニスタン NGO ネットワーク（JANN）【団体会員】／日本図書館協会【会員】／貧困のない世界の実現をめざすネットワーク日本 (GCAP Japan)【サポーター】／日本ファンドレイジング協会【団体会員】／災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援Ｐ）【委員】／東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会【委員】／ The Asia Disaster Reduction & Response Network(ADRRN) ／「エクセレント NPO」をめざそう市民会議【監事】

◎海外

●タイ：Books for Children Foundation【会員】／ Task Force for Children in Thailand (TFCT)【会員】／ The Publishers andBooksellers Association of Thailand【会員】／いきいきした学校図書館を考えるネットワーク【会員】●カンボジア：Cooperation Committee for Cambodia (CCC)【会員】／ Japanese NGO Worker's Network in Cambodia (JNNC)【会員】／ NGO Education Partnership (NEP)【会員】●ラオス：International NGO Network, Education Sector Group Meeting【会員】／ International NGO Network【会員】／ Japanese NGO Network Meeting (JANM)【会員】●ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ：Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand (CCSDPT)（難民支援事業調整委員会）【会員】●アフガニスタン：Agency Coordinating Body For Afghan Relief (ACBAR)【会員】／ Technical Working Group in Nangahar【会員】●全体：Asian South Pacific Bureau of Adult Education (ASPBAE)【理事】

❖ 国内における主な受賞歴

正力松太郎賞（84 年）
ソロプチミスト日本財団賞（85 年）
外務大臣賞（88 年）
毎日国際交流賞（94 年）
東京都豊島区感謝状（95 年）
防災担当大臣賞（04 年）
兵庫県知事感謝状（05 年）
第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」（08 年）

（2011 年 4 月 1 日現在）

寄付金について、税の優遇措置が、受けられます。

募金には所得税、住民税、法人税及び相続税の税控除が認められています。当会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。